

意見交換会（宇治市都市計画マスタープラン）議事録
対象：志津川地域

日時：2021/10/23 15：30～17：00

会場：志津川集会所

参加者：13名

宇治市：米田副部長、中本副課長、森田係長、藤田主任

発言者	内容
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・天ヶ瀬ダムの取り組みは都市計画なのか。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画ではないですが、観光振興の取り組みとして本市が行っています。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興のために住民で取り組むにも地域が活性化していないと難しい。市街化調整区域の中で地域を活性化させるためには、地区計画による規制緩和が必要である。 ・最近アウトドアがブームになっており、志津川地域にも人々を呼び込むチャンスだが、地域の過疎化が進むとそれも出来なくなる。 ・川辺でバーベキューなどをした後、ゴミを散らかして帰る人がいるため、観光客を呼び込むにも秩序を守るための啓発活動やゴミ掃除が必要。それを行うにも人手がいる。 ・「これからの都市計画の視点1」で「交通ネットワーク等を通じて地域と地域が連携・補完し、今あるまちの資源を市民で共有することで市民が享受できる都市のサービスの質を確保・向上させていくことが必要」と書かれているが、これはどう言う方法が考えられるのか。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・「これからの都市計画の視点1」の記載の意味として、今までは買い物などの生活に必要なサービスは全て最寄り駅周辺などに整っていましたが、今後、人口が減少する中でこれまでのようなサービスを維持することは難しくなります。これからは、「買い物を行うためには他の地域にも行ってもらい、これによりサービス施設を地域間で共有して維持する。そして、そのために電車などの公共交通を利用してもらい、これにより公共交通も維持していく。」と言ったことを行う必要があるため、そのことについて記載しています。 ・ただし、志津川地域は市街化調整区域であることから、この考え方には当てはまらないため、別途対応を考える必要があると考えてます。 ・公共交通については、公共交通体系基本計画を策定して対策に取り組んでいます。鉄道駅が近くにない地域などは、今まで路線バスでの移動が主流でしたが、高齢化が進む中でバス停に行くことが不自由

	<p>な人も増えており、人々の移動手段に対するニーズが変化してきています。そのため、例えば乗合タクシーなど、人々のニーズに合った公共交通について検討しているところです。</p>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後はサービスの質を維持するのが精一杯で、向上させていくのは難しいと言うことか。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、人口減少が進むのは事実で、地域の人口密度が減ると、サービス施設も利用者が少なくなるため減少していきます。サービス施設を維持するためには、公共交通などを利用して他の地域の人々にもサービス施設を共有してもらわなければならない状況になってきています。 ・ そのような中でサービスを向上させていくためには、生産年齢人口を宇治市に増やしていく必要があります。そのためには、子育て・医療・産業・商業などを充実させることが不可欠で、本市も総合計画を策定し、様々な部署が連携して各施策に取り組んでいるところです。都市計画についても、この総合計画の見直しに伴い、今回マスタープランの改訂を行います。 ・ マスタープランは全体的に市街地中心の内容に偏ってしまうことから、志津川地域のような市街化調整区域に対しては、本来のマスタープランの考え方とは別枠として、まちづくりの在り方を検討しています。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域は過疎化が進んで苦しい状況に立たされており、宇治市にはもっと早くから市街化調整区域のまちづくりに対して取り組んでもらいたかった。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市も志津川地域のまちづくりについて、これまで住民の方々と意見交換会を行ってきましたが、人によって様々な意見が自ずと出てくるので、それらの意見をまとめる上でも時間を要してきたところではあります。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地を資材置き場に利用された場合、夜中に騒音が発生したりと地域で問題になっている。市街化調整区域の資材置き場に対して、敷地の周囲の緑化や、夜中の作業の規制などを条例で設けている自治体もあるので、宇治市も考えて欲しい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の緑豊かな環境をまちづくりに活かしていくことと、今の環境を将来に向けて維持・発展させていくことが、志津川地域の住民の方々の思いであると認識していますが、条例では規制に一定の泳ぎしろが出てしまうため、皆さんが考えるまちづくりを行うためには、地区計画の制度が適しているのではないかと考えています。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区計画によるまちづくりについて、守山市や舞鶴市にも視察に行

	<p>ったが、それらの地域では早いペースでまちづくりが進んでいるので、一度まちづくりの手法を確認して参考にして欲しい。「条例一つで地域が変わった」と言う話も住民から聞いており、実際にどのような手法でまちづくりが行われているのか気になっている。</p>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村によって、人口や民間開発の実情などに違いがあるので、それによって有効な手法も変わってくると思いますが、本市も志津川地域に有効なまちづくりの手法について今後も検討を続けます。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを行うに当たって、市街化調整区域のメリットとデメリットを整理した上で手法を考える必要がある。 ・住民にとって住み良いまちづくりを行うことで、それが志津川地域の魅力となり、まちの活性化に繋がると思うので、まずは地域に住んでいる人々を優先に考えたまちづくりを行って欲しい。 ・地域の農地も緑地として保全する箇所や住宅にする箇所などを土地所有者と協議して意向に沿いながら、乱開発にならないように地域のあるべき姿にして欲しい。 ・他の市町村の地域では、自治体の運用基準や地区計画を地域で活用することで、農地などが奇麗に整備されているところや、自治体職員が熱心にまちづくりに取り組んでいる姿を見ている。それらの様子を見ると、私達も宇治市と連携してまちづくりに取り組んでいく方が良く考えている。 ・いくら計画を立てても実行しなければ意味がないので、私達も宇治市と密に連絡しながら、まちづくりに取り組んでいきたい。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・本市も志津川の集落を未来に向けて維持・発展させていきたいと言う思いは同じです。地域の方々もまちづくりについて色々調べられています、本市も有効なまちづくりの手法について検討し、その結果を互いに共有しながら、地域の方々と共にまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然も足を踏み入れれば荒廃している場所が多く、これらの自然を将来も維持していけるような人口構成にしていきたい。 ・守山市や舞鶴市の地域を視察したが、舞鶴市の地域では集落地区計画が採用されており、守山市と比べて厳しい規制がかけられている。京都府は地区計画の運用が厳しいのではないかと感じている。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴市の地域は、おそらく開発許可条例の制度と併用して地区計画を定めているのではないかと思います。また、守山市は滋賀県なので人口の状況も京都府とは違います。京都府には人口減少により区域区分の線引きを廃止した市町村もあるため、そのような状況の違いが京都府と滋賀県との運用の違いに関係しているかもしれませ

	ん。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 志津川地域の町内会は他の地域の町内会と比べても、やらなければならないことが沢山ある。住民の高齢化が進むとそれらの活動も出来なくなり、地域が荒廃してしまう。その状況まで、もう時間がなく心配している。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> 里山の環境が崩れていることも地域の課題として伺っていますが、どのような状況でしょうか。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 地域の川には魚がいないし、タケノコも生えてこないと言った状況である。しかし、住環境を整備しないと若い世代の人は地域に入ってくないため、乱開発は問題だが、まちを活性化させるためには、ある程度の市街化は仕方がないと思う。 志津川地域から外に出て行った若い世代も、年をとって地域に戻ってくると、自分達が所有する農地や竹藪などに対する意識が芽生えて手入れをするようになるし、これが里山の保全ではないかと思う。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> 里山を保全する場合、農業の担い手不足の問題があるため、農業の振興も併せて考える必要があるのではないかと考えていましたが、どのような状況でしょうか。
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 今は農業だけでは生活していくことが出来ず、地域には専業農家がない。農家も後継ぎがおらず、土地を売るにも市街化調整区域の規制があるため、農業経営者でないと土地を買えないし、売れても二束三文にしかない。 農地の所有者が亡くなると後継ぎがいないため農地が荒廃していき、田や茶畑などは一度手を加えるのを辞めてしまうと復活させることは出来ない。地域の山裾も昔は茶畑だったが、今は山林に変わっており、害獣が棲みついて農地を荒らされて問題になっている。 農業委員会や農林茶業課からは組合の設立などの案内が来るが、そのようなことに取り組む活力は地域にない。
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございます。まちづくりの参考にします。